

寄稿

平成から令和へ多くの取り組みが前進

小田原市長 加藤 憲一

平成から令和へと御代替わりが行われた2019年は、小田原で様々な取り組みが大きく前進した二年でした。

長年の懸案であった大型整備事業は、小田原駅東口の広域交流施設建設が着々と進行。4月に着工した市民

ホールも順調に建設が進み、それぞれ来年・再来年の秋にはオープン予定です。「漁港の駅TOTOCO小田原」は11月に開業、水産の魅力発信拠点として既



かとうけんいち
1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目を務める。「持続可能な地域社会」づくりに向け奮闘中。

5月には「地域循環共生圏」のモデル事業に、さらに7月には「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に認定されたことは、これまで多くの市

私が変わる・小田原が変わる
おだわらを拓く力
(加藤けんいち後援会)
小田原市栄町2-13-1-2F
TEL.0465-21-5260
(月・水・金 10:00~17:00)
<https://www.katoken.info>

に活況を呈しています。城山陸上競技場の改修などを経て準備を重ねてきたラグビーW杯は、日本代表の大活躍もあって、ワラビーズの公認キャンプ地として大いに盛り上がり、オーストラリアとの強い絆が育ちました。

市民生活を支える面では、老朽化の進んでいた斎場の再整備が完了し7月から稼働、今年度中には駐車場や進入路の整備も終了予定。環境事業セン

ターのごみ焼却施設は4年間をかけて取り組んだ大型基幹改良工事がほぼ完了。三大案件ばかりが注目されがちなか中、市民生活に不可欠で一日の停止もできないこの2施設の整備が進み、安堵しています。子どもたちのいのちを守るべく取り組んだ小中学校普通教室へのエアコン設置も、オール小田原の事業者の皆さんの努力と連携で、7月より稼働に至りました。

民の皆さんと取り組んできた「持続可能な地域社会づくり」の実践と先進性が評価されたものです。2年目に入った「おだわら市民学校」では熱心な学びが続いており、実践現場で人が育つ良循環の形成に向かっています。

他にも、様々な協働やまちづくりの実践が進化しています。来年は市制80年。この歩みが更に力強く進むことを確信しています。